

経済・経営学基本演習（月2：鷺崎）

## 「モノポリー」福岡版の創作発表

### 1. 期日

- ・2010年12月13日(月)

### 2. 目的

- ・「モノポリー」福岡版を創作し、それを商品化したらどうなるかを検討する。
- ・「福岡」とは北部九州全域を指すものとし、「福岡市」に限定するものではない。
- ・必ずしも行政単位に固執する必要はない。 Ex. 「九大版」, 「ホークス版」etc.

### 3. 分析

#### (1) 「福岡版」マスの選定

- ・権利書のあるマスを「福岡版」に置き換える。
- ・ランダムに配置せず、ラインや位置取りをよく考え、理由を付しておくこと。
- ・GO, JAIL, FREE PARKING, GO TO JAIL の4マスは、変更しない。

#### (2) 「福岡版」コマの選定

- ・福岡版にふさわしいコマを8種類用意する<sup>1</sup>。
- ・なぜ、そのようなコマを選んだのか、理由を付しておくこと。

#### (3) 「福岡版」チャンスカード・共同基金カードの選定

- ・カードの文面を、福岡版にふさわしくなるように変更する<sup>2</sup>。
- ・指示された金額や受取・支払などの行為、移動するマスの位置は変更しない。

---

<sup>1</sup> アトランティック・シティ版のコマが、①流線型の自動車、②海軍軍縮条約後の戦艦、③アイロン、④指貫、⑤リヤカー、⑥カウボーイ、⑦シルクハットで構成されているのは、1930年代における大恐慌時代のアメリカ合衆国を反映したものである。ただし、なぜ⑧子犬がコマになったのか、定かではない。

<sup>2</sup> 授業用 Web サイト ([http://www.washizaki.org/basic\\_seminar/index.html](http://www.washizaki.org/basic_seminar/index.html)) に、アトランティック・シティ版、大阪版のカード内容を掲載しておいたので、参照すること。

## 4. 発表方法

### (1) 持ち時間

- ・各班とも **15分**(発表 10 分, 質疑応答 5 分)を使って, 上記の内容を報告する。

### (2) 発表の順番

- ・当日, 権利書を使って籤引きを行う。
- ・順番が遅くなっても, 先に発表した班と被らないよう, オリジナリティに注意を払う。

### (3) 発表形式

- ・新しい商品を企画したときのコンペティションのつもりで, 発表に臨むこと。
- ・紙媒体のレジュメに, 上記 3 点の内容と理由を記載する。
- ・「マスの選定」については, ゲーム盤の見取り図を描いて説明する<sup>3</sup>。
- ・PowerPoint の使用も推奨する。(使用する場合は, 事前に私宛へメールをする。)

## 5. 評価と採点

- ・当日, 各履修者に「評価シート」を配布し, 一人一人が各班の発表を採点する。
- ・自分の班に対しては, 採点を行わない。
- ・評価項目は, 次の 5 つ。**1項目につき 20点満点**(5 段階評価), 合計 100 点満点。
  - ① **オリジナリティ**: 自分達なりの思索・思考・洞察力を示している。
  - ② **チームワーク**: 班員全体で発表した軌跡が伺える。
  - ③ **エンターテインメント性**: ゲームとして「笑い」の要素がある。
  - ④ **論理性・説得力**: シナリオが論理的に構成されており, 説得力がある。
  - ⑤ **情熱**: 伝えようとする情熱が感じられる。
- ・採点結果と順位は, 次週の授業で公表し, 成績評価の「報告内容」に反映させる。

※ いずれにせよ, 独創的, かつ商品化を実現する意気込みで課題を克服してほしい。

---

<sup>3</sup> 授業用 Web サイトに, アトランティック・シティ版, 大阪版のゲーム盤を掲載しておいたのので, 参照すること。

## モノポリー・チャンピオンからの「福岡版」アドバイス

- ①地域版の制作については、地名、企業、観光施設、特産品、イベント、人名……なんでもいいと思います。
- ②「思いつき」ではなく、よくコンセプトをよく考えて制作するのが大切だと思います。
- ③「誰をターゲットにどのような目的をもつものとするのか？」
  - ・観光客に観光の思い出として持ち帰ってもらい、若者に地場産業を知ってもらい、小中学生の食育のために地元の農産物を知ってもらいなど。
- ④「モノポリーの『世界観』をうまく活かして、どのようにマス配置するのか？」
  - ・ダークブルーはすぐにわかるとしても、その他をどう考えるか、アイデアが問われる。ボードを東西南北に見立てたり、カラーグループごとの特性に合う分野のものをまとめたりするなど。
- ⑤カラーグループと鉄道、公共会社の合計 28 マスが、最も自由度の高い部分です。
  - ・「28」という数字は、なんでもできそうで、実はそれなりに制限のあるもの。多様性の中に何らかの「主張」をうまく表現できれば、遊んでも見ても楽しいモノポリーになると思います。